

兵庫県青少年団体連絡協議会

<https://seidanren.net/>



兵庫県青少年団体連絡協議会 2020年度 加盟団体 23団体 (順不同)

兵庫県連合青年団	一般社団法人 兵庫県子ども会連合会
日本ボーイスカウト兵庫連盟	一般社団法人 ガールスカウト兵庫連盟
一般財団法人 野外活動協会 (O A A)	兵庫県 B B S 連盟
兵庫県ユースホテル協会	一般社団法人 神戸青年会議所
公益社団法人 日本青年会議所近畿地区 兵庫ブロック協議会	兵庫県スポーツ少年団
兵庫県青年国際交流機構 (I Y E O)	兵庫県商工会青年部連合会
公益財団法人 神戸 Y M C A	公益財団法人 神戸 Y W C A
一般社団法人 神戸フットボールクラブ	兵庫県青年洋上大学同窓会
一般財団法人 兵庫県少林寺拳法連盟	兵庫県緑の少年団連盟
兵庫県モラロジー青少年団体連絡協議会	兵庫県世界青年友の会
一般社団法人 神戸国際支縁機構	特定非営利活動法人 生涯学習サポート兵庫
一般社団法人 いえしま自然体験協会	

兵庫県青少年団体連絡協議会 調査研究委員会

委員長	山崎 清治 (生涯学習サポート兵庫 理事長)
委員	速水 順一郎 (兵庫県青少年団体連絡協議会 顧問)
委員	鈴木 武 (日本ボーイスカウト兵庫連盟 理事長)
委員	萩本 義郎 (いえしま自然体験協会 業務執行理事)

【調査報告書】

『子どもの意見を聞いてほしい』

新型コロナウイルス感染拡大に関する 『兵庫の青少年活動等への影響と課題』

2021年3月 兵庫県青少年団体連絡協議会

企画記事 子どもたちにインタビュー



『子どもの意見を 聞いてほしい』

新型コロナウイルス感染拡大に関する
兵庫の青少年活動等への影響と課題

Contents

はじめに 2

【企画記事】

コロナ禍の影響を 子どもたちにインタビュー 3～10

教育関係者・青少年団体指導者への提言 11

萩本 義郎・兵庫県青少年団体連絡協議会 監事
(いえしま自然体験協会常務理事)

子どもたちへの提言 12

速水 順一郎・兵庫県青少年団体連絡協議会 顧問

保護者への提言 13

鈴木 武・兵庫県青少年団体連絡協議会 理事
(日本ボーイスカウト兵庫連盟理事長)

青少年団体への提言 14

山崎 清治・兵庫県青少年団体連絡協議会 副代表理事
(NPO 法人生涯学習サポート兵庫理事長)

新型コロナウイルス感染症の影響に関する
心のケアアンケート結果（兵庫県教育委員会） 15～18

ひょうご青少年憲章 19

新型コロナウイルス感染症に関する主な動き 20

はじめに

井上 真二
兵庫県青少年団体連絡協議会 代表理事
公益財団法人神戸 YMCA 総主事



「すべての青少年が 心も身体も健康に育つ兵庫」 を目指して

兵庫県青少年団体連絡協議会（以下、青団連）は昭和 42（1967）年から 50 有余年にわたり、県内で活動する青少年団体で協議会を発足して活動を続けてきました。時代の変化とともに求められる青団連のあり方を見つめなおし、ミッション、ビジョンの再定義、規約、運営組織の見直し、新しい理念を掲げ、新しい組織での運営をスタートしたのが 2019 年度です。

決意を新たに、社会の状況を踏まえ、子どもたちが健全に成長する「兵庫」であるために、心身ともに健康に育つ環境づくりや、体験活動を提供する青少年団体の活動の活性化を支えて 1 年も立たないうちに、新型コロナウイルスの感染症の影響を受けはじめました。

この目に見えない感染症の蔓延がいつ収束するのか未だに分かりません。公衆衛生とは、グローバル化とは、ウイルスとの共存とは、様々な課題がつけつけられる 2020 年のスタートになりました。私たちの青少年活動は人と人がつながること、支え合うことが全ての基盤であり、それを強みとしてきました。出会うこと、交わること自体が大きな制約、制限を受けているなかで、子どもたちもまた同様に学校の休校、自宅待機、そして再開というこれまで経験したことのない不安定な日常生活を余儀なくされています。

青団連は、毎年、青少年活動に関わる重要課題に対する調査研究を推進してきました。2020 年度は兵庫県青少年本部委託事業として「新型コロナウイルス感染拡大に関する兵庫の青少年活動等への影響と課題」をテーマとし、このコロナ禍の時期に子どもたちが生活面や心理面等でどのような変容を遂げているのか、その内容を調査検証し現状認識を深め、今後の青少年活動を共に考えていきたいと思っています。

コロナ禍の影響を 子どもたちにインタビュー！

日時／2021年1月16日13:30～15:30 会場／兵庫県民会館7階「鶴の間」

学校の休校や外出自粛といった活動の制限、目に見えない感染への不安など、子どもたちはこれまで経験したことのない非日常にさらされ、不安定な生活を強いられています。

兵庫県青少年団体連絡協議会（青团連）は今年度の調査研究テーマに、「新型コロナウイルス感染拡大に関する兵庫の青少年活動等への影響と課題」を設定。コロナ禍の影響をどのように受け止めているのか、子どもたちに直接インタビューして現状を把握、検証し、今後の青少年活動に役立たせていきます。なお、調査では青团連の各団体に所属する小学3年から5年生までの9人に協力をいただきました。



山崎委員
(司会進行)

Q ① 学校が休みになると聞いて思ったことは？ A ② 休校中、どんな風に過ごしていたの？

萩本班

①学校が休みになると聞いて思ったことは？

島田さん「うれしかったけど、すこし心配だった」

谷藤さん「びっくりした」

齋藤さん「はやく学校再開してくれと思った」

②休校中、どんな風に過ごしていたの？

島田さん「宿題をしてから家の近くで遊んだり、弟といっしょに家の中で遊んだりしていた」

谷藤さん「ゲームしたり、ママと公園に行ったり、すごく楽し

かった」

齋藤さん「勉強とゲーム」

萩本委員「休業期間中、勉強はした？」

齋藤さん「あんまり出来なかった」

島田さん「遊ぶのが楽しくて、勉強が嫌になった」

谷藤さん「同じです」

萩本委員「休業って、だれから聞いたの？」

齋藤さん「学校から連絡が来た。突然で寂しかった」

島田さん「友だちと急に会えなくなるし」



萩本委員「どこかに遊びに行きたいと思うことはあった？」

島田さん「電車が好きで、撮影に行きたかったけどコロナで行けなくなった」

速水班

①学校が休みになると聞いて思ったことは？

嘉納さん「うれしかった。宿題とかほとんど出ないから」

花川さん「最初はずっとゲームばかりしていてうれしかったけど、途中から友だちと話したいと感じてきて。学校が再開されることになって、『やった！』と思った」

今野さん「びっくりした。宿題が少なかったの、すぐに終わって暇だった」

速水委員「友だちと連絡をとりあった？」

嘉納さん「連絡するとか、特につながりはなかった」

花川さん「文面では伝わりづらいので、対面した方が分かると思って会いたくなった」

今野さん「連絡がとれない子もいたから学校に行きたいって思った」

②休校中、どんな風に過ごしていたの？

嘉納さん「ほとんど家から出なかった」

花川さん「寝る、食べる、ゲームする。部屋でダラダラ過ごすことが多かった」

今野さん「ゲームをしていた」

速水委員「家で何かしていたことがある？」

嘉納さん「家にいる時間が多い



から、兄弟喧嘩も多くなった」

速水委員「コロナについての説明はあった？」

花川さん「なかった」

今野さん「テレビで知った」

嘉納さん「少しずつ、ニュースで知った」

鈴木班

①学校が休みになると聞いて思ったことは？

坂西さん「そんな急に！」

高橋さん「初めは心配した。在宅で生活のリズムが崩れると思ったから」

中村さん「学校が楽しかったから、ショックだった」

鈴木委員「うれしいとは思わなかったんだね。どんなことを心配したの？」

高橋さん「弟と一緒に、お母さんの実家に行くことになって、そこでどんな生活になるのかなって」

鈴木委員「家族が大事な時だから心配したんだね。偉いね」

②休校中、どんな風に過ごしていたの？

坂西さん「勉強を約1時間して、ゲームをしていた」

高橋さん「宿題はちょっとしかせず、ゲーム尽くしだった」

中村さん「午前中に3時間ぐらい頑張って勉強して、午後は遊んだ」

鈴木委員「休校中に家の中での一日のスケジュールを自分で作ってみたことはある？」

高橋さん「全く作らなかった」

中村さん「学校の時間割どおりに勉強した」

鈴木委員「目標がある方が一日



を過ごしやすかったので、日程を立てた方が良いかもね。学校から宿題を与えられた？」

坂西さん「ちょっとだけ」

鈴木委員「休業中、何か新しいことをしたり、家の手伝いをした？」

高橋さん「まったくしてない」

Q A ③ 学校再開後、友だちとどんな話をしたの？ ④ 再び緊急事態宣言になり、思うことは？

萩本班

③学校再開後、友だちとどんな話をしたの？

島田さん「自粛期間中、なにをしたか。どんなことがしたかったかなどを話した」

谷藤さん「思い出や生活のことを話したりした」

④再び緊急事態宣言になり、思うことは？

島田さん「もういや！ もっと自由自在になりたい！ 三回目の緊急事態宣言になったら我慢できなくなる」

谷藤さん「もし学校がもう一回休みになったら、びっくりと驚くと思う」

齋藤さん「ちょっと油断してたな。前回で収まったと思ったのに」

萩本委員「友だちは良いことがあったと言っていた？」

齋藤さん「特になかったって言っていた。僕はバスケができたのが良かった」

萩本委員「休校期間中、よく頑張ったなってことはある？」

齋藤さん「バスケが上手くなった」

島田さん「少人数でできる遊びが思いつかず、悔しかった」

萩本委員「休校前と後で学校は変わっていた？」

齋藤さん「ソーシャルディスタンスとマスク」

島田さん「最初はマスクが邪魔に思ったけど、今は着けるのが当たり前になった」



萩本委員「だれが一番油断していたと思う？」

齋藤さん、島田さん「政治的に油断していた」

萩本委員「みな油断していたよね。気を付けないと」

谷藤さん「友だちがコロナにかかってほしくないと思う」



速水班

③学校再開後、友だちとどんな話をしたの？

今野さん「何してたのって聞くと、グータラしていたって」

花川さん「友だちはずっと塾の課題で勉強していたと言っていた」

嘉納さん「ゲームしたり、ほとんどすることがなかったと言っていた」

速水委員「休校中、考えたり思ったりしたことは？」

花川さん「生活習慣が乱れている人もいればそうでない人もいたと思った」

速水委員「久しぶりの学校の雰囲気はどうだった？」

今野さん「マスクをしていて、授業もちゃんとできなかった」

花川さん「分離登校ではなかったけど、廊下などは静かだった」

④再び緊急事態宣言になり、思うことは？

嘉納さん「学校に行けるから、まだましな方だなと」

花川さん「飲食店の人たちが辛そう。前回の緊急事態宣言で減茶苦茶にされたのに、さらに今規制をかけられて」

今野さん「また、外に出れなくなる。コロナは消えてほしい」

花川さん「早くマスクなしの生活に戻りたい」



速水委員「また学校が休みになったら、どんなことが不安？」

今野さん「友だちと会えないのは嫌だ」

花川さん「趣味を探したい。好きなことができる時間が増えるから」

鈴木班

③学校再開後、友だちとどんな話をしたの？

坂西さん「今日から、また鬼ごっこができるな！」

高橋さん「仲が良かった友だちとクラスが離れ、休校もあって話す機会が少なくなった。新しいクラスでは人気漫画の原作を読んでなくて話についていけなかった」

中村さん「一番仲が良かった友だちとは、以前と違ってあまり会話が弾まなかった。けど、今は元通りになった」

鈴木委員「休校後、気持ちの変化はあった？」

中村さん「学校に行き始めてか

ら、逆にストレスが溜まった」

④再び緊急事態宣言になり、思うことは？

坂西さん「お店の人たちがとてもかわいそう。それと、自由に公園に行けない」

高橋さん「学校をまた休みにすべきかどうか、大人たちだけで考えているのが気になる。これから先、どうなるのか心配」

中村さん「もうちょっと前に緊急事態宣言を出した方がよかったと思う。休校した時より感染者数が増えているから、そういう所は休みにした方がいい」

鈴木委員「休校の経験を生かして、変えていきたいと思うこと



はある？」

坂西さん「もうちょっと密を避ける」

高橋さん「学校も時短をすればよいと思う」

中村さん「変異ウイルスの拡大は危険との考えを強くする」

Q A ⑤ 大人たちに お願いしたいことは？

萩本班

島田さん「油断大敵！『油断をするといけないよ』と言いたい！」

谷藤さん「たまにパパが休みになることもあるので、そのときに時間があったら宿題を見ることをお願いしたい」

萩本委員「そうだね。パパだけ家でゴロゴロして『宿題はやったのか』と言うのはないよね」

齋藤さん「ワクチンを早く作って！世の中に配ろう。ちゃんと広めないと」

萩本委員「ワクチン接種はもうすぐだね。私は『頑張ろう！』と言いたい。世界中に

油断大敵と言わないと」

齋藤さん「ワクチン接種は高齢者優先ですね」

萩本委員「ワクチンができれば接種する？」

齋藤さん「打ちたいかな」

萩本委員「いま海外ではワクチン接種が始まっているけど、インフルエンザのワクチンは打ったことがある？」

谷藤さん「あります。病院で5回くらい」

萩本委員「皆で気を付けながら、ワクチン接種で予防していく方法もある。気を配っても感染してしまうこともあるので、みなで支え合わないといけないね」



島田さん「今の時代、コロナで大変だから、油断をしてしまうとコロナにかかってしまったり、インフルエンザとか他の病気もあるし、気を付けてほしい。それを皆に言ってほしい」



速水班

今野さん「学校でマスクを外して良いかを聞きたい。また、コロナの予防についても」

嘉納さん「世界中の人にちゃんとワクチンが行き渡るようにしてほしい」

花川さん「早くワクチンを世界に広めて量産してほしい。治療薬を早く作ってほしい」

速水委員「今の状況で自分にできることってある？」

花川さん「マスクはできるだけ外さないようにする。換気をして、3密を避ける」

嘉納さん「消毒液をなるべく持参し、外出は控える」

今野さん「学校から借りるものを少なくし、なるべく自分たちで買う」

速水委員「自粛期間中、ボーイスカウトなど青少年活動団体にやってほしいことはある？」

今野さん「リモート集会などできる限りのことをしてほしい」

花川さん、嘉納さん「特にない」

速水委員「身近な大人にお願いしたいことはある？」

嘉納さん「出かけられるようにしてほしい」

花川さん「20時以降の外出は控え、なるべく外食は避けてほしい」



速水委員「今の大人は子どもの手本にどれくらいなっている？」

嘉納さん、花川さん「30%！」

今野さん「全部を教えてくださいたい人はいない」

鈴木班

高橋さん「コロナでいま、社会がどうなってるかななどをより詳しく、そして分かりやすく教えてほしい」

坂西さん「僕もそう思う」

中村さん「ニュースは難しい言葉が沢山出てきて、途中で分からなくなるから、子どもにも分かりやすい表現にして放送してくれたら幅広い世代にコロナのことが伝わるんじゃないか」

鈴木委員「子どもニュースとかあればいいのだろうけど、ないからね」

坂西さん「今のコロナの感染

状態などを、もっと詳しく教えてほしい。政府の考えをもっとニュースなどで言ってほしい」

鈴木委員「小学生でもいろんなことを考えているんだね。今回のコロナ対応では、大人も政府も悩んでいる。初めての経験だから。でも辛い経験をしたなら、将来に生かせるように色々考えなくちゃいけない」

中村さん「政府も子どものいろんな意見を聞いてほしい。大人ばかりで決めないで、子どもの考えも使ってほしい。学校や家でストレスが溜まった時、どうしたらいいのか」



鈴木委員「コロナのことやストレスのことは、先生や親に聞いたり、相談したりするのが良いかも。また、友だちを作って、ストレスを言い合うのも良い。親に相談するのが良いかも。」

Q A ⑥ 将来やりたいと思うことは、コロナで変わった？

萩本班

谷藤さん「**コロナの感染が拡大してソーシャルディスタンスが始まり、（社会の様子ががらりと変わって）すごいなと思った**」

萩本委員「ソーシャルディスタンスなんて、だれが考えたんだろうね。すごいね」

島田さん「**将来の夢だけど、阪急電車の運転士になりたいと思っている。でも、もしコロナで今のような社会が続いたら、普通の社会人になる**」

萩本委員「電車が大好きだもんね。一般の社会人でも電車関係の会社で働くとかも良いと思う。いい夢だね」

島田さん「できれば、そうしたい。とりあえず、電車関係の仕事に就きたい」

齋藤さん「**僕は別になりたい職業はないけど、親友を大切にできる人間になりたい。コミュニケーションが得意な人。それはコロナが続いても変わらない**」

萩本委員「本当にそうだね。人とのコミュニケーションは大切だけど、難しいよね」

萩本委員「一つ覚えておいてほしいのは、大切なことほど辛く、しんどいということ。適当にするのはすごく楽だけど、勉強はしんどいよね。それは大切だから」



ら。しんどいことほど頑張っている。一番好きな勉強はどの科目？」

齋藤さん「音楽。それ以外では、算数が好き」

谷藤さん「算数」

島田さん「体育と社会。嫌いなのは算数」



速水班

花川さん「**バスケのプロ選手になって、新しい病気が流行ったら、なるべく医療関係者に募金したいと思う**」

嘉納さん「**世界を回りたい。世界一周をしたり、普通に暮らすことができない人たちを助けていきたい**」

速水委員「どうして、そう思うようになったの？」

嘉納さん「テレビのCMなどを見て」

今野さん「**コロナになる前は夢はなかったけど、今は自分だけじゃなくて人の心配もできる人間になりたい**」

速水委員「コロナ禍の中で、特にどんなことを感じた？」

嘉納さん「ストレスが溜まって発散ができる場所もないから、ストレスを減らせる取り組みができればと思う」

速水委員「バスケでプロ選手になるにはどうしたらいい？」

花川さん「練習する。バスケは一人では勝てないから、チームとコミュニケーションをとる」

速水委員「嘉納さんの一番最初に行きたい国はどこ？」

嘉納さん「アメリカ。ハンバーガーとか色んな食べ物がありそうだから」



速水委員「今野さんは、人の心配ができるようになるにはどうしたらいいと思う？」

今野さん「人の気持ちが考えられるように、気を配りたい」

速水委員「人の立場に立って考えるのは大事だね」

鈴木班

中村さん「**コロナが出てきて、いつも辛いことを聞いてくれるお母さんや、忙しい中で医療機関の人が頑張っているから、私もそういうことができ、困っている人を助けたり、子どものことを聞いてあげられるような優しい大人になりたい**」

高橋さん「**ずっと機械に関する仕事がしたいと思っている。コロナで変わったということは全くない**」

鈴木委員「いつからそういう仕事をしたいと思い始めたの？」

高橋さん「5歳くらいから」

鈴木委員「きっかけは何？」

高橋さん「4歳くらいからスマホを持つようになって、スマホのCMもやってるし、機械の本なんかも読んで、未来の社会に役に立つ機械が作りたいと思った」

鈴木委員「それじゃあ専門的な勉強をしないとね。叶えるように頑張ってるね」

坂西さん「**将来は人のために働けるような仕事をしたいと思っている。それはコロナが拡大する前から考えていた**」



大切な夢を持っているようなので、まずは実現のために努力しましょう。この夢を忘れないようにしようね。あと、分からないことがあった時は相談する相手を見つけよう」

青少年団体、家庭、学校が 支え合う世の中に



萩本 義郎

突然のコロナ禍の中で、子どもたちは日常を奪われました。家庭も経済活動の大きな変化の渦に巻き込まれました。グローバル化が急激に進み、正体も充分に分からないまま、感染症があつという間に世界を覆い尽くすことに驚くと共に、確かな情報発信の大切さや、病にかかった方への偏見や差別の恐ろしさにも気付かされました。

子どもたちへのインタビューの中で、「もっと詳しく教えてほしい」「大人ばかりで決めないで、子どもの考えも使ってほ

しい」などの声がありました。さらに、ワクチンや政治の話なども子どもはしていました。社会の出来事に関心を持ち、立派な社会人として成長をしていく姿がよく分かりました。今こそ子どもの視点を社会に向け観察をし、情報収集能力や正しい判断力・行動力を身につける好機ではないでしょうか。今、確かな情報の発信のもと子どもたちの元気を取り戻し、生きる力を身につけ、健やかな成長を促すため様々な体験活動が求められています。

ります。そのような中で校区だけでなく、もっともっと広域に範囲を捉えて頂きたいと思えます。

人が成長するためには五感を通し豊かな自然や仲間とふれあうことが大切です。コロナ禍により、大人も子どももストレスを抱えてきています。

こんな時こそ、青少年団体と家庭・学校が手を取り合い情報共有し、子どもたちに分かりやすい情報を伝える工夫をする好機だと思います。私たちの使命は、生まれたばかりの若葉をそっと両手で包み、慈しみ育てること。強い風や照り付く日差し、時には暴風にも耐える力が付くように、優しく、厳しく見守ることと考えます。そのために、子どもたちの願いを中核にし、発達段階に応じた情報発信をどこが担うのかを考えていく必要があるのではないのでしょうか。

果たすべき役割をいま一度見直す岐路に

ここで、皆さんに考えていただきたいことがあります。

子どもたちの生活を支えているのは、もちろん家庭であり学校ですが、コロナ禍の対応をしながら子どもたちを健全に成長させるために取り組んでいる多

くの団体があることを知ってもらいたいのです。

学校・家庭・地域とよく言われますが、子どもを育てるための地域とはどの範囲を言うのでしょうか。兵庫県には、様々な青少年活動をしている団体があ

いっぱい体験をして 夢を持ち、チャレンジを



速水 順一郎

【こどもたちへ】

いっぱい体験をしてほしい。

今、君たちはネットで何でも調べることができます。でも、ふれることはできません。

春、山に行き、小川に手をつけた時、手が切れてしまいそうな思いをします。

森で鳥のさえずる声、どこにいるのか分からないけれど、どこからか聞こえてきます。どこでさえずっているのか、葉っぱや枝の陰から探します。でも、なかなか見つかりません。

秋、木の葉が赤や黄色に変わります。いっぱい落ち葉が重な

り、まるで絨毯（じゅうたん）の上を歩いているような気持ちになります。

写真や映像では感じるこのできないことです。

【道具を使ってください】

料理道具、大工道具、職人さんが使っている道具、どの道具もそれぞれ工夫がしてあります。最初は難しいけれど、家の人や大人の人に教わりながら使っていくと道具のことが良くわかります。

道具のことがわかれば、工夫することができます。頭で思ったことが体で実行できます。

相手の話を聞き、理解する努力をして

【手を使いましょう】

道具の多くもそうですが、手を使うことがたくさんあります。粘土をこねたり、水をすくったり、虫や生き物をつかんだり、いろんなことができます。手を使うと様々な使い方ができることを知ります。

【話をしましょう】

友だちと、家族と、親戚の人と、近所の人々と話をしましょう。話をすることは自分が一人でしゃべるのではありません。話を聞くことも大切です。相手の話を聞き、何を言おうとしているのかを理解します。自分が話そうとする内容は何かを確認します。そうして、いろん

な人の考えや意見を理解することができますのです。

【家での役割はありますか】

家族は最初の身近な人の集まりです。大人が何でもしてくれるから何もしなくてよいではありません。それぞれが支えあって暮らします。自分のできることは進んでやるようにしましょう。そうすると、家族や仲間のありがたさが良くわかります。

【夢を持ちましょう】

将来なりたいことややりたいことをもとめましょう。

次に、そうなるためにどうすればよいのか考えましょう。いろいろな人の意見を聞いたり、本を読んだりして考えます。

チャレンジしましょう。もしうまくいかなくてもあきらめずに、うまくいかなかったことをしっかり見つめてやり直しましょう。目標が途中で変わってもよいのです。それはあなたが成長しているからです。チャレンジの気持ちを忘れないようにしながら取り組みましょう。

コロナ禍の非日常だからこそ語り合う時間がほしい



鈴木 武

コロナ禍の非日常の中で、保護者に求められることとは何か、という視点からインタビューを振り返りました。

●休校への彼らの戸惑い

休校は何の前触れもなく突然にやってきました。子どもたちにとって好きな学校へ行けないというのは一大事だったようで

す。彼らには、なぜ急に休校にしなければならないのか、理由も分からず戸惑いがありました。保護者は子どもたちのこの一大事にどう向き合ったのでしょうか。

彼らは子どもながらにコロナなどTVや新聞で見聞きする社会現象について関心を寄せていることを知りました。

いのか、その夢はたとえとりとめのないものであっても、保護者は耳を傾け話し合う時間は貴重な時間といえるでしょう。

●非日常だからこそ語り合う時間がほしい

今回のインタビューを通じて、親子の会話はどれほどされているのだろうかと思いました。それでは家庭内でどのタイミングが良いのだろうと想像したとき、世界で最も貧しい元大統領のホセ・ムヒカさん（ウルグアイ）の言葉を思い出しました。彼は家族そろって食卓についた時が一番幸福とを感じるそうです。

ご家庭によっていろいろと事情はあると思いますが、例えば、幸せと思う食事などの団欒（だんらん）のときに、子どもたちの思い、悩み、チャレンジングな夢などについて話し合う良いチャンスかも知れません。非日常だからこそです。

保護者にとっても突然の時間であり、考えるべき機会でもあると思いました。

●漠然とした将来の子どもたちの夢

彼らの将来への夢を聞くと、人の役に立つ仕事をしたい、と異口同音に回答してきたのには、まだ小学生なのに少々驚きました。コロナを経験してその思いはますます強くなったようです。

子どもたちは将来何になりました

家族団らんのときに話し合うチャンスに

●休校期間の過ごし方

ゲームに多くの時間を費やした子ども、学校のカリキュラムに沿って自習した子ども、三人三様の生活がスタートしました。休校期間中、起床・就寝、勉強、遊びなど、一日の生活リズムについて保護者は子どもたちと話し合う時間が持てたでしょうか。生活リズムが変化することでストレスを感じる子どももいました。

休校という子どもたちに与えられた突然の出来事は、結局、

青少年団体の使命～居場所をつくるということ～



山崎 清治

子どもたちが「ソーシャルディスタンス！」と叫ぶ姿を、毎日のように目にするようになりました。人が集まること、触れ合って遊ぶこと、表情を見ながら会話することなどが禁止されている毎日が続いています。今を生きる子どもたちは、人との関わりを学ぶ成長過程の中で、それらが悪だと心に刷り込まれてしまうのではないかと心配しています。

子どもたちのサードプレイスはどこに

以前から、サードプレイスという言葉がよく使われています。家庭と学校（大人の場合は職場）以外に、自分が自分らしく存在できる場所を作りましょうという啓発活動です。サードプレイスは集まる人間にとって学びや刺激、人間関係やリラックスを得られる場です。その場所は習い事や地域の集まりなど、人によって作る場所は違い

学校が突然休校になり、多くの子どもたちが自分の居場所を失いました。家庭の中だけでは行動できなくなった子どもたちの多くが、早く学校に行きたい、友だちに会いたい、友だちと遊びたい、話をしたいと思っていたことが、様々な調査から分かりました。ただ、子どもたちの居場所は家庭と学校だけだったのでしょうか？

ます。青少年活動団体はまさに、子どもたちのサードプレイスの一つであったはずです。

コロナ禍で多くの青少年団体の活動が停止、もしくは制限されています。私たち主催者は、制限されている中で、これまでしてきた活動がどれだけ実施できるかに目がいっています。私たちが教育プログラムを提供する役割と考えるとそうかもしれ

ません。ただ、子どもたちにとっての「居場所」としての役割を忘れてしまっているのではないかと思います。目には見えなくても、子どもたち同士や、子どもと指導者とのコミュニティはすでにあります。その繋がりを守り続けていくことも大切なのではないのでしょうか。

ワクチンが開発されても、元の生活様式に戻るかはまだ分かりません。また、今後も新たな災害や脅威が発生するかもしれません。学校が休校になったら、子どもたちは健全に育たない、子どもの居場所がなくなってしまうということは避けなくては いけません。どんな状況になっても孤立する子どもを作らない。そのためにも、教育プログラムを提供する「場」としてだけではなく、子どもたちにとっての大切な「居場所」を作り、守り続けていくという使命が、私たち青少年団体にはあるように思います。

実施概要

1. 調査の趣旨

新型コロナウイルス感染症に伴う臨時休業により、児童生徒は自宅で多くの時間を過ごすことになった。学校再開に伴い、感染症への恐れや学校生活への不安、保護者のストレスから虐待を受けているケース等、心理的ストレスを抱えている児童生徒が存在すると考えられる。

そこで、これから長期間にわたる新型コロナウイルスへの対応が想定されることから、精神的に不安定な状況にある児童生徒の状況を把握し、その心の理解とケアへの取組に資する。

2. 調査実施期間

第1回 令和2年 7月13日～31日 第2回 令和2年 9月14日～10月30日 第3回 令和3年 1月下旬予定

3. 調査対象

①児童生徒		②保護者(第2回より、新たに実施)	
校種	学校数	校種	学校数
小学校	48	小学校	48
中学校	48	中学校	48
高等学校	60	特別支援学校	10
特別支援学校	10		

調査結果と分析

1. 調査結果の概要

- ストレスを抱える児童生徒の割合については、1回目の調査(7月実施)と比較して、大きな変化が見られない。
- 新たに実施した保護者対象の調査(小・中学校、特別支援学校)において、保護者と児童生徒との間に認識の差が見られる。

- ・「新型コロナウイルス感染症への理解について」は、すべての項目で、肯定的な回答(よく知っている・少しあてはまる)が増加している。
- ・「毎日の生活について」において、「リラックスする方法を知っていて、実際にやっている」の項目で「あてはまる」と回答した児童生徒が増加している。
- ・保護者対象の調査において、家庭で感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷をしてはいけないことについて、話をしたことがある保護者は、学年が上がるにつれて増加している。

2. 小項目ごとの児童生徒の回答状況(1回目との比較)

① 新型コロナウイルス感染症への理解について(3項目)

- ・「コロナウイルスとは、何か知っていますか」の質問に対して、「よく知っている」と回答した児童生徒は、すべての学年で増加している。
[小学校低学年 57.0% (+5.5)、高学年 63.5% (+3.4)、中学校 59.9% (+2.6)、高校 59.7% (+1.4)]

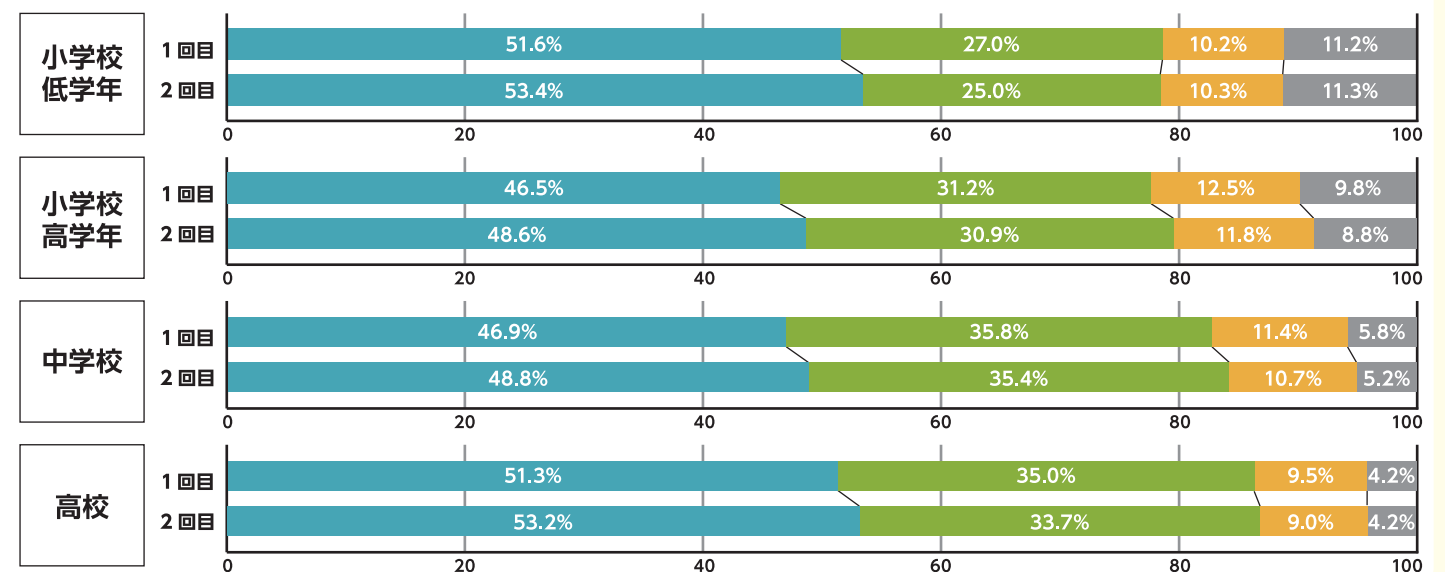
主な調査内容

心とからだのストレスについて(5項目)

- ・「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとなったりする」の質問に対して、「ない」と回答した児童生徒は、すべての学年で約2ポイント増加している。
[小学校低学年 53.4% (+1.8)、高学年 48.6% (+2.1)、中学校 48.8% (+1.9)、高校 53.2% (+1.9)]

むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとなったりする

■ ない ■ 少しある(1～2日) ■ かなりある(3～5日) ■ ひじょうにある(ほぼ毎日)

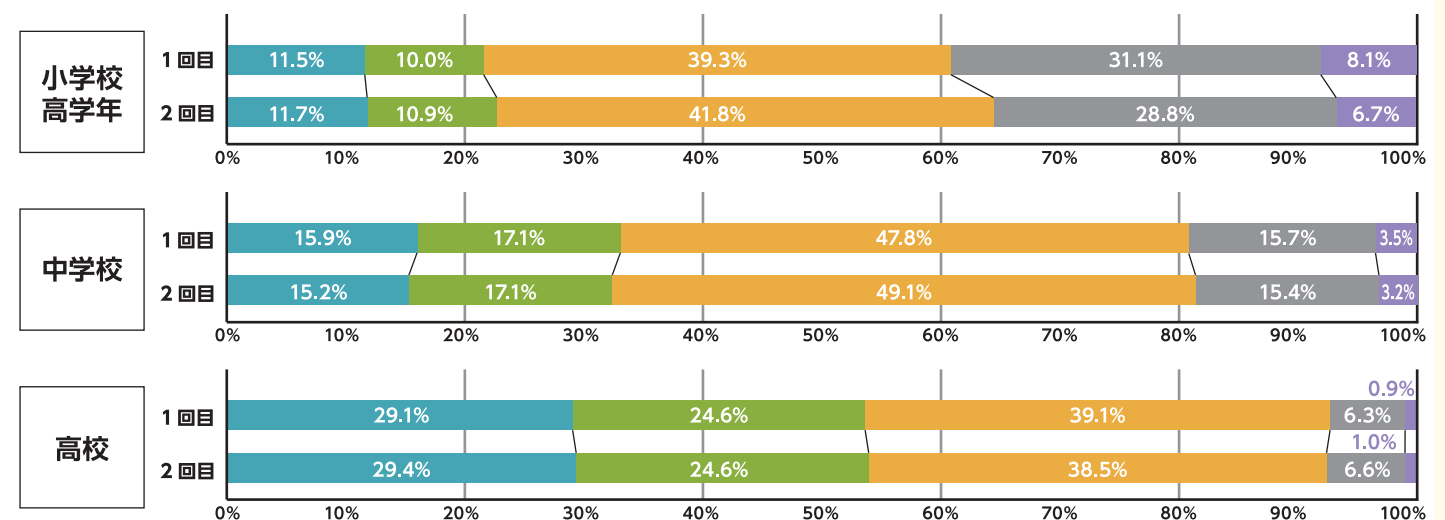


ゲーム・SNSの使用時間について(1項目)(小学校4年生以上)

- ・「1日あたりのゲーム・SNS・動画などネットを使っている時間」の質問で、3時間以上使用している児童生徒の割合は、あまり変化が見られない。
[小学校高学年 22.6% (+1.1)、中学校 32.3% (-0.7)、高校 54.0% (+0.3)]

ゲーム・SNS・動画など、ネットを使っている時間は1日あたり、どのくらいですか

■ 4時間以上 ■ 3～4時間 ■ 1～3時間 ■ 1時間以内 ■ していない

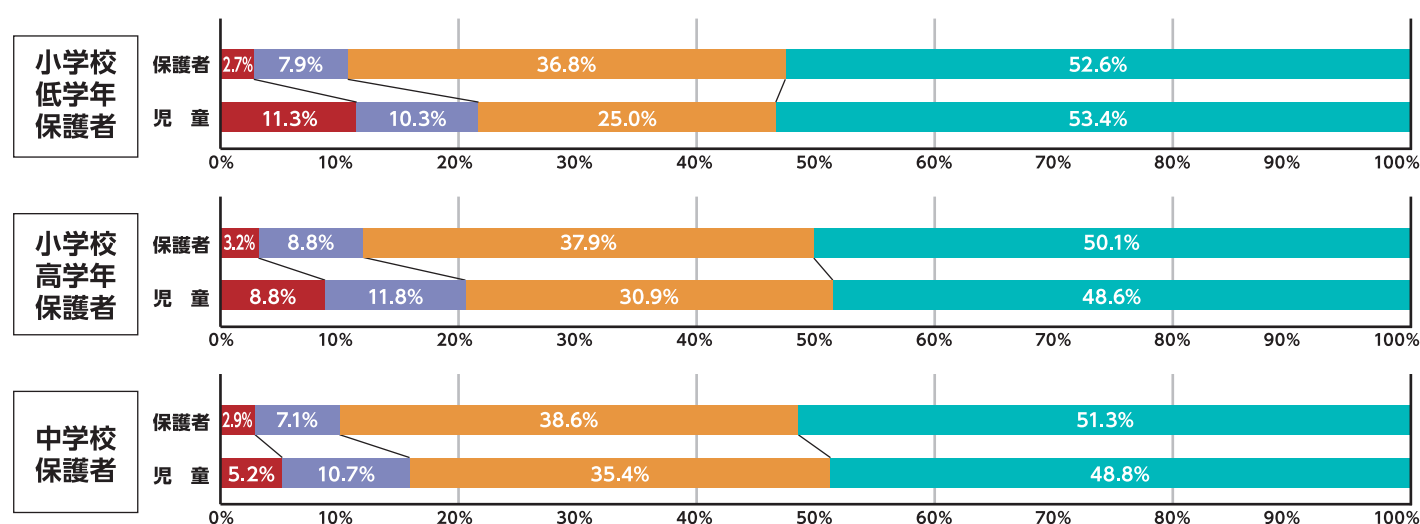


心とからだのストレスについて（児童生徒との比較）

・「むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとなったりすることがあるか」という質問で、「ひじょうにある（ほぼ毎日）」「かなりある（3～5日）」と回答した児童生徒の割合が、小学校低学年 21.6%、高学年 20.6%、中学校 15.9%であるのに対し、保護者の割合は、他のストレスに関する質問項目に比べて、高いものの、小学校低学年 10.6%、高学年 12.0%、中学校 10.0%となっている。

むしゃくしゃしたり、いらいらしたり、かっとなったりする

■ ひじょうにある（ほぼ毎日） ■ かなりある（3～5日） ■ 少しある（1～2日） ■ ない

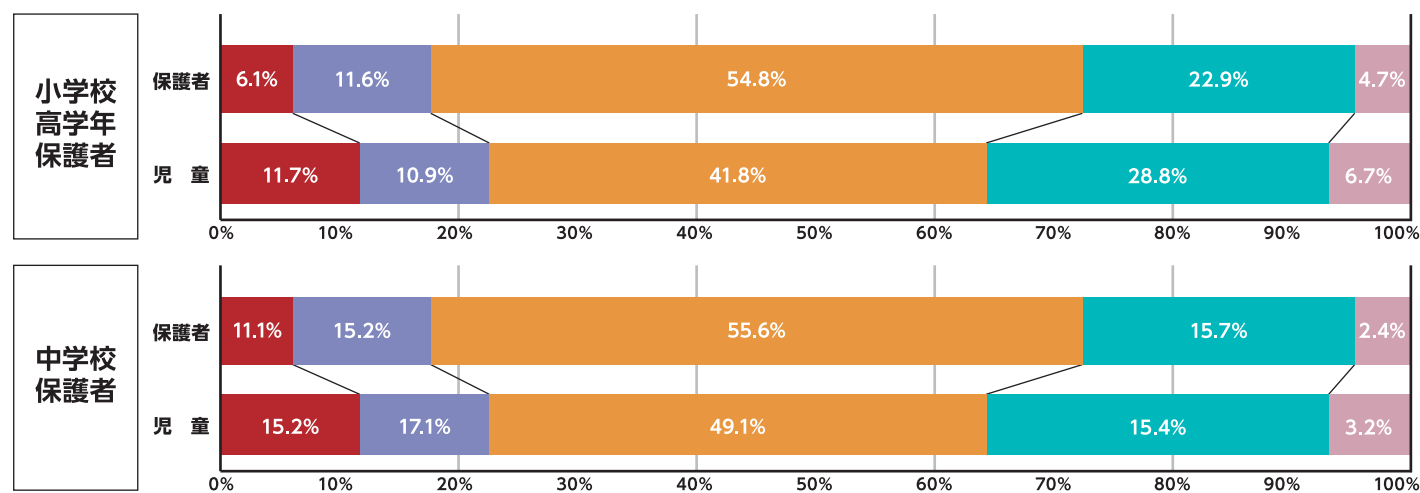


ゲーム・SNSの使用時間について（児童生徒との比較）

・ゲーム・SNS・動画など、ネットを使っている1日あたりの時間が3時間以上であると回答する児童生徒の割合が、小学校高学年 22.6%、中学校 32.3%であるのに対し、保護者は、小学校高学年 17.7%、中学校 26.3%と低くなっている。

ゲーム・SNS・動画など、ネットを使っている時間は1日あたり、どのくらいですか

■ 4時間以上 ■ 3～4時間 ■ 1～3時間 ■ 1時間以内 ■ していない



児童生徒と保護者の比較

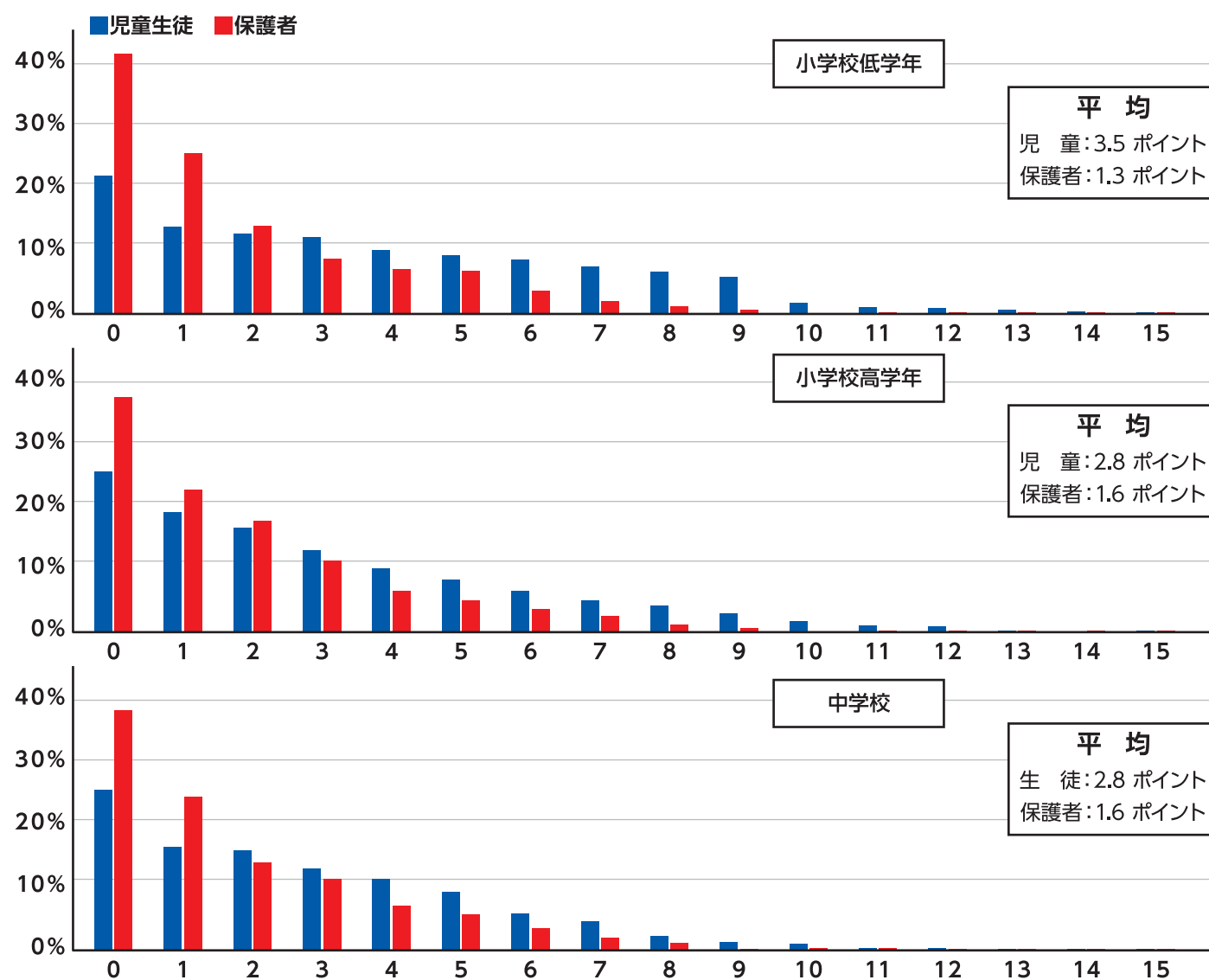
・心とからだのストレスに関する質問（5項目）が「0」ポイントの保護者の割合は、小学校低学年 41.9%、高学年 37.9%、中学校 38.4%となっており、児童生徒と比べ、高くなっている。

心とからだのストレスに関する項目（5項目）の合計分布

5項目 [ない:0 少しある(1～2日):1 かなりある(3～5日):2 ひじょうにある(ほぼ毎日):3] の合計ポイントの分布 (0～15ポイント)

※5項目の合計15ポイント (3ポイント×5項目)

(児童生徒: 小学校低学年 21.0%、高学年 24.2%、中学校 23.1%)



対応策

- ・新型コロナウイルス感染症への正しい知識、差別や偏見につながらない授業、ストレスへの対処法を学ぶ授業等の特別授業の継続実施や個別相談等の充実を図るため、心のケア支援員を12月から新たに10市町に拠点配置するとともに、スクールカウンセラーの配置時間を増加する。
- ・差別や偏見につながらない授業や児童生徒の心のケアについて、家庭と連携した取組となるよう指導する。
- ・心のケアに関する効果的な取組、支援体制等、指導実践事例の収集及び周知を図る。

ひょうご青少年憲章

平成 12 年 3 月制定

いま、私たちは暮らしや社会のあり方が大きく移り変わる転換の時代にあります、
先の阪神・淡路大震災は、人と社会に何が必要なのかを改めて教えてくれました。
私たちは、これまでの自分の生き方を省みて人間生活の基本に立ち返り、
自らを尊ぶと同時に、家庭や地域や国、そしてかけがえのない地球に生きる人間として、
ひょうごの明日を担う青少年とともに、自信と夢と勇気をもって
21 世紀を築いていくことを誓い、この憲章を定めます。

- 1 自分を大切にし、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう
- 2 ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として生きていこう
- 3 人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう
- 4 多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生きていこう
- 5 自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正して生きていこう
- 6 先人に学び、明日に夢をえがき、勇気を持って未来を拓いていこう

「ひょうご青少年憲章」の考え方

じそん じりつ 自尊・自律

自分を大切にし、自らを律し、行いに責任をもって生きていこう

自ら考え、自ら判断し、自らを律していく自律性は、人間の
本質に属します。そこで人は、おのおの自らを尊重し自信と誇
りをもつとともに、権利や自由だけではなしに、それらと不可
分に結ぶ義務や責任も果たしていくことが欠かせません。

きょうりよく こうせい 協力・公正

ふれあいを深め、正義感をもち、社会を担う一人として
生きていこう

人間は社会的な存在であり、人々の協力・協働によって暮ら
しを営んでいます。人と人とのふれあいを深め、社会の基本的
なルールを守り、社会の構成員としての役割を担っていくこと
が望まれます。

おも 思いやり

人の痛みや喜びを感じあえる心をもって生きていこう

人間関係には、利害にもとづく合理的な関係と、それを越え
た心のかよいあいがあり、温かい人間関係を生み出すのは後者
です。そこで、人間的なぬくもりのある社会関係が形成されて
いくには、どうしても共感や思いやり、あるいは友愛の心が育
まれていくのでなければなりません。そうでなければ、人間関
係は合理性のみを追求するものとなり、人間的なぬくもりは消
えていくことになるでしょう。

かんよう きょうせい 寛容・共生

多様な人々の存在を受け入れ、ともに支えあって生き
ていこう

社会は、自分と異なる立場にあったり、様々な価値観をもつ
た人々で成り立っています。社会の急速な変化のなかで、価値
観やライフスタイルの多様化が進み、人・モノ・情報などの地
球規模での交流も加速しています。このような状況のなかで、
調和ある共生社会を構築するためには、人々が互いの違いを認
めあい、尊重しあうことが不可欠です。

い けい 畏 敬

自然を愛し、生命を尊び、みえない世界にも襟を正し
て生きていこう

古来、私たちの先祖は、美しくも厳しい自然を畏敬の念をもつ
て見つめ、その営みに自らの生活をあわせながらひたむきに生
きてきました。しかし急速な科学技術の発達や経済の発展の中
で人知と人力に対する過信が生じ、自分と自分を取り巻く世界
に対する敬虔さといったものが失われ、人・社会・自然の調和
は崩されてきました。私たちは、今一度、人間生活の基本にか
えり、自分たちの暮らしや生き方を見直していくことが大切で
しょう。

そう ぞう 創 造

先人に学び、明日に夢をえがき、勇気をもって未来を
拓いていこう

理想や夢を抱き、その実現に向けて努力することは、人間だ
けに備わった特性であり、人や社会のありようを決定する基礎
となります。21 世紀がどのような社会となるか、また、各自
の生き方がどのようなものとなるかは、私たち一人ひとりが何
を理想とし、どう行動していくかにかかっています。

私たち大人が、“こころの豊かさ”を大切にしながら、自信
と誇りをもって生活していくとき、子どもたちも温かい思いや
りの心や明日をたくましく切り拓く力を身につけて、勇気をも
って希望に満ちた未来へ大きく羽ばたいていけるようになる
ことでしょう。

新型コロナウイルス感染症に関する主な動き（3 月 1 日現在）

2020 年	
1 月 6 日	中国・武漢で原因不明の肺炎
1 月 14 日	WHO が新型コロナウイルスを確認
1 月 15 日	日本国内で初めて感染確認
1 月 30 日	WHO が「国際的な緊急事態」を宣言
2 月 13 日	国内で初めて感染者死亡
2 月 27 日	安倍首相が全国すべての小中高校に臨時休校要請の考え公表
3 月 1 日	県内初の感染者を確認
3 月 24 日	東京五輪・パラリンピックが 1 年程度延期に
4 月 7 日	兵庫県を含む 7 都府県に緊急事態宣言
4 月 11 日	県内の新規陽性者が 42 人に第 1 波ピーク
5 月 20 日	夏の全国高校野球 戦後初の中止決定
5 月 21 日	関西で緊急事態宣言が解除
6 月 28 日	世界の感染者 1000 万人を超える
6 月 29 日	世界の死者 50 万人を超える
7 月 10 日	県コロナ追跡システムが稼働
7 月 22 日	「Go To トラベル」キャンペーン始まる
7 月 28 日	国内の死者が 1000 人を超える
7 月 31 日	県内の新規陽性者 62 人 第 2 波ピーク

8 月 11 日	世界の感染者 2000 万人を超える
8 月 28 日	政府が新型コロナ対策の新たな方針発表
11 月 8 日	県内の感染者が急増
12 月 8 日	イギリスで新型コロナウイルスのワクチン接種が始まる
12 月 15 日	GoTo トラベル全国一時停止へ
12 月 20 日	変異ウイルス拡大 欧州諸国が警戒
2021 年	
1 月 14 日	兵庫を含む関西 3 府県に緊急事態宣言発令
1 月 15 日	国内の感染初確認から 1 年収束兆し見えず
1 月 23 日	新型コロナウイルスの死者全国で 5000 人を超える
1 月 27 日	世界の感染者が 1 億人を超える
2 月 3 日	新型コロナ 特措法など改正案参院本会議で可決し成立
2 月 13 日	世界全体の新たな感染者数が減少傾向に
2 月 14 日	新型コロナワクチン国内初の正式承認
2 月 18 日	医療従事者にワクチン先行接種県内で開始
2 月 28 日	関西 3 府県で緊急事態宣言が解除

『子どもの意見を聞いてほしい』

新型コロナウイルス感染拡大に関する兵庫の青少年活動等への影響と課題

発行日 2021 年 3 月

編集・発行 兵庫県青少年団体連絡協議会

神戸市中央区下山手通 4-16-3 兵庫県民会館 8 階

(公財) 兵庫県青少年本部 活動支援部 内 Tel 078-891-7410

協力 (株)兵庫ジャーナル社

神戸市中央区下山手通 4-6-13 Tel 078-333-7560